

実践のためのアプローチ (ソーシャルワーク実践理論・モデルから学ぶ)

- ・ 集合研修2「実践のためのアプローチ」を受講するにあたり、事前に本資料及び基礎研修テキスト上巻P59～106を読み、講義の概要を確認してください。

1. 実践モデルと実践アプローチ

実践モデルは実践のガイドを果たす概念及び枠組みであり、実践アプローチはモデルに基づき、援助活動を展開する組織化された手立てととらえることができます。理論と実践の相互作用が、実践学といわれるソーシャルワークにおいて不可欠であることはいうまでもありません。勘と経験に依拠する実践から一定の科学の成果や法則を採用して、応用する科学的実践へさらに進めていく。クライアント発信による援助理論の構築も進められています。理論と実践をつなぎ、さらに実践のためのアプローチについて学んでいきます。

2. アプローチによる実践の比較・いくつかの主要なアプローチ

ソーシャルワークの理論は、その時代の状況と実践を反映しています。複雑化する福祉問題に対応するべく、援助方法・技術の拡大がみられており、ソーシャルワークのアプローチも多様化してきています。ソーシャルワーク実践における、ミクロレベルのさまざまなアプローチについて学んでいきます。

- ①医学モデル - 社会モデル - 生活モデル
- ②心理社会的アプローチ
- ③行動主義アプローチ
- ④課題中心アプローチ
- ⑤エンパワメント、ストレングス
- ⑥ケアマネジメント/ケースマネジメント
- ⑦危機介入アプローチ
- ⑧ソーシャルサポート・ネットワーク
- ⑨ナラティブ・アプローチ
 - グループワーク、
 - コミュニティワーク
 - スーパービジョン/コンサルテーション

- この科目は『新 社会福祉援助の共通基盤第2版』上巻 社会福祉士がとらえる相談援助 第5節～第6節、『新 社会福祉援助の共通基盤第2版』下巻 社会福祉士がとらえる福祉経営 第2節を参考にして作成しています。
- 『新 社会福祉援助の共通基盤第2版』の中で同じような意味で使用されている用語の統一をはかるために、相談援助、社会福祉援助、実践などは「ソーシャルワーク実践」に、利用者、対象者、クライアントなどは「クライアント」にまとめています。